

(仮称) 土浦市立上大津地区統合小学校整備基本計画 概要版 (案)

■はじめに

上大津地区では小学校の児童数減少による課題解消のため、令和2年4月に先行して旧上大津西小学校を菅谷小学校に暫定統合しました。また、令和2年11月に策定した「土浦市上大津地区小学校適正配置実施計画」に基づき、今後も適正な教育環境維持が可能な神立小学校を除き、上大津東小学校と菅谷小学校の適正配置に向け、令和9年度の開校を目指し(仮称)土浦市立上大津地区統合小学校(以下、「統合小学校」という。)を整備することになりました。

■統合小学校の規模

令和4年度から20年度までの、統合小学校において想定される児童数と学級数の推計は、以下に示す通りです。上大津東小学校については令和6年度頃をピークに増加が見込まれますが、菅谷小学校では引き続き減少が見込まれます。令和9年度の統合後の小学校の児童数推移は、緩やかに減少する可能性が見込まれます。これらを踏まえ、統合小学校の施設規模の検討を行いました。

年度	学校	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R15年度	R20年度
児童数 (人)	上大津東小学校	387	409	411	398	387	498	468	434
	菅谷小学校	131	130	127	129	125			
	合計	518	539	538	527	512			
学級数 (学級)	上大津東小学校	15 (3)	15 (3)	16 (4)	14 (2)	17 (3)	21 (3)	21 (3)	15 (3)
	菅谷小学校	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)			
	合計	23 (5)	23 (5)	24 (6)	22 (4)	25 (6)			

※令和9年度以降は統合小学校の児童数・学級数を示します。

※ () 内は特別支援学級の内数を示します。

■計画予定地の条件について

計画予定地周辺に関する状況を以下に整理します。

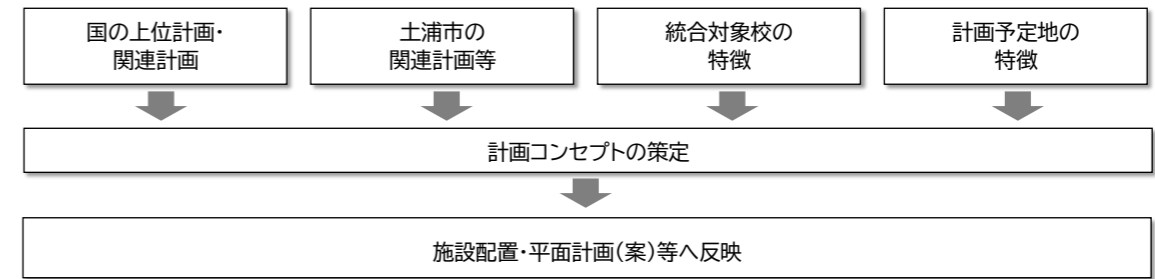
・敷地の現状

項目	内容	計画予定地
都市計画区域	市街化調整区域	
建ぺい率	60%	
容積率	200%	
道路斜線	適用距離 20m、勾配 1.5	
隣地斜線	立上がり 20m、勾配 1.25	
防火地域	なし	
日影規制	なし	
接道条件	南側 市道Ⅱ-19号線	
	東側 市道手野46号線	
	市道手野49号線	
	北側 市道手野192号線 市道手野47号線	

■施設整備の考え方

・計画コンセプトの整理

計画のコンセプトを以下の考え方に基づいて設定します。



・計画コンセプト

メインコンセプト

小学校・中学校・地域の連携により、子どもたちの成長を支えていく学校

① 安心・安全な学校づくり

- 大人たちの目が行き届きやすく、児童が安心して過ごせる環境
- スクールバスを含む、安全な登下校動線
- 教職員が児童の教育・指導へ集中できる職務空間
- 地震や洪水、土砂災害等、あらゆる災害に強く、地域の安心を守る拠点

② 心の豊かさを養う学校づくり

- ユニバーサルデザインの導入やインクルーシブな環境づくりにより、誰もが過ごしやすい学校
- 計画予定地ならではの豊かな自然環境を活かした、五感で自然を感じる環境

③ 地域に開かれた明るい学校づくり

- 児童と教職員、中学生、更には多世代の地域住民など、多様な交流を生み出す場
- セキュリティに配慮しながらも開放的で明るい、地域の方々に親しまれる施設

④ 新たな学びを積極的に取り入れた学校づくり

- 主体的・対話的で深い学びを可能とし、感染症対策等も踏まえたスペース確保等、多様な学習形態に柔軟に対応できる空間・施設
- 中学校と隣接した特徴を活かし、キャリア教育の充実や異年齢交流の促進等、施設分離型小中一貫校として小中一貫教育を効果的に実現できる学校
- 将来にわたる技術の進展へ対応しやすく、学びへ効果的に ICT 技術を活用できる環境

⑤ 環境に配慮した学校づくり

- 環境配慮技術等の効果を感じられる、環境教育の場となる校舎
- 自然エネルギーの活用や省エネルギー化を積極的に行う学校
- 抗菌抗ウイルス建材使用や換気等による感染症対策を考慮した施設

⑥ 持続可能な学校づくり

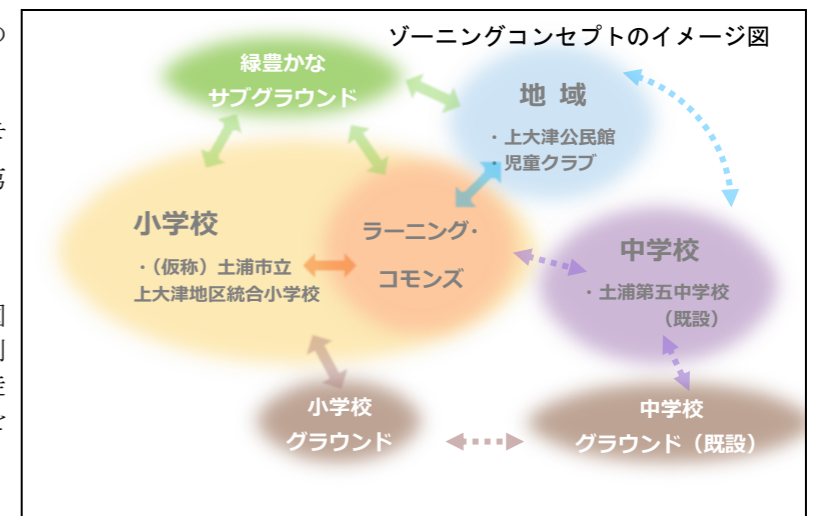
- 学びの変化や児童数の増減等にフレキシブルに対応できる、長く使いやすい校舎
- メンテナンスのしやすさなど、将来にわたる経済性や長寿命に配慮した施設

・施設整備にあたっての基本方針

計画コンセプトを踏まえ、施設整備にあたっての基本方針(ゾーニングコンセプト)を策定しました。

右図のように統合小学校では、ラーニング・コモンズ*1を中心に地域住民、小学校、そして土浦第五中学校との連携が図れるような配置とします。

※本計画におけるラーニング・コモンズは学校図書室を核とし、多目的教室や地域開放を行う特別教室を一体的にゾーニングすることで、児童・生徒に加え、地域住民の「学び」の中心となるエリアを指します。



■複合化の検討

計画予定地には、老朽化が進行している上大津公民館が含まれており、複合化等の可能性を検討するため、様々な視点から整理を行いました。今後の上大津公民館の在り方について、「新しい小学校との複合化」・「現状維持」・「廃校等への移転」におけるメリット・デメリットを下の表により整理しました。

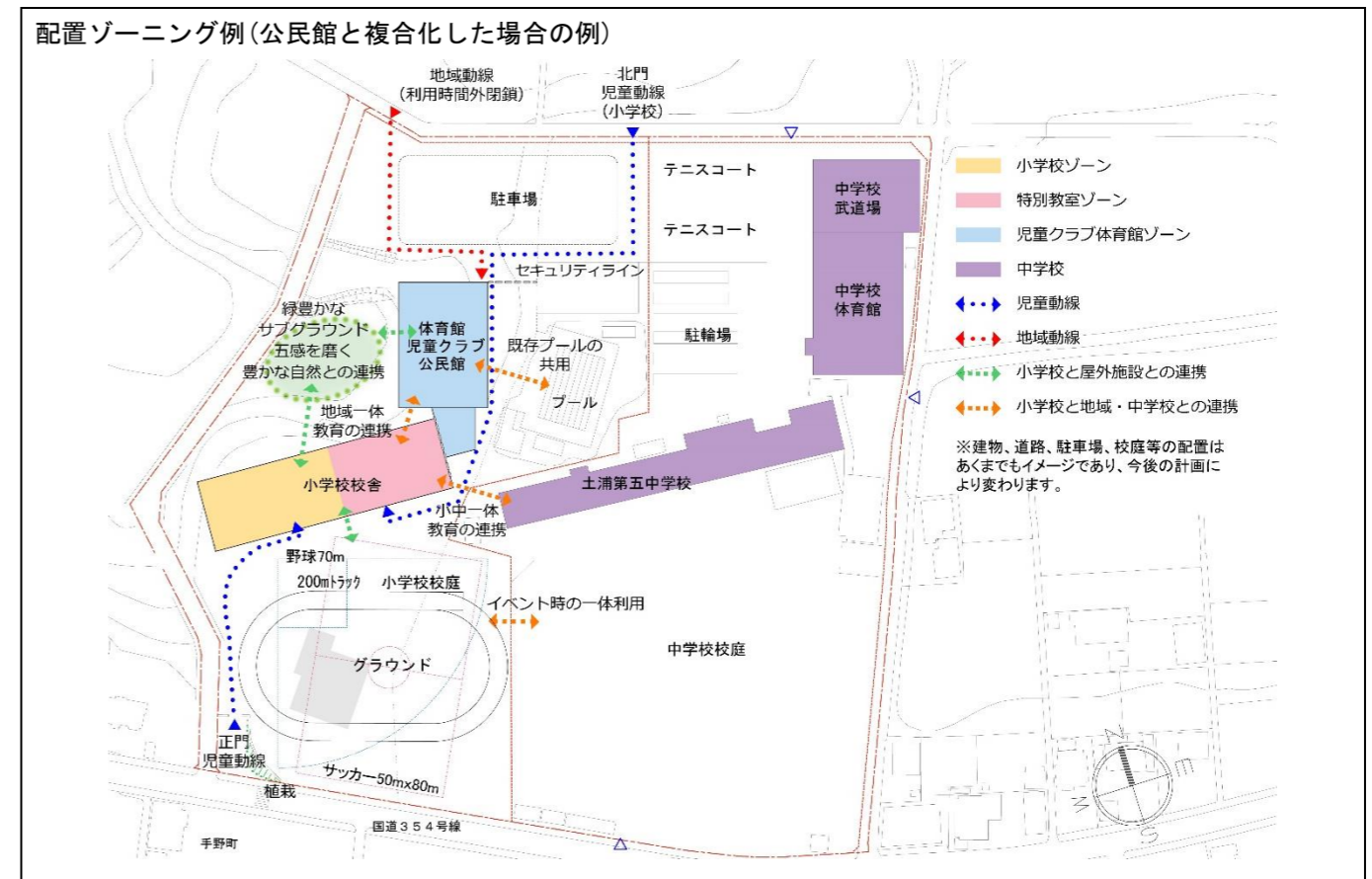
その結果、公民館利用者等からの意見も踏まえ、複合化する方針とします。

公民館の在り方のメリット・デメリット

	新しい小学校との複合化	現状維持	廃校等への移転
立地	○今まで通り上大津地区の中心部に位置する	○今まで通り上大津地区の中心部に位置する	▲上大津地区の中心付近ではなくなる
学校との連携	○より密な連携が可能となる ○小学校と一体の施設とすることで、公民館で活動する人達と児童生徒に交流が生まれ、コミュニティの拠点となることが期待でき、また、学習の相乗効果が現れることが期待できる ○児童生徒に高度な専門知識に触れる機会を創出したり、学校運営への支援強化が期待できる	▲密な連携は難しい	×地域の核となる学校から離れる
機能性	○通常よりも少ない経費で、高機能化、多機能化が期待できる	▲外装、内装、設備等が老朽化しているため大規模な改修が必要	▲外装、内装、設備等が老朽化しているため大規模な改修が必要
将来性	○新築することで今後長期間利用できる	▲老朽化しているため長寿命化改良工事が必要であり、財政負担を減らすためには複合化・集約化も検討しなければならない	▲老朽化しているため長寿命化改良工事が必要であり、財政負担を減らすためには複合化・集約化も検討しなければならない
利便性	○エレベーターが設置できる ○お年寄りや障がい者等にもやさしい施設が整備できる	▲構造的にエレベーターの設置が困難 ▲構造的な制約があり完全なバリアフリー化は困難	▲構造的にエレベーターの設置が困難 ▲構造的な制約があり完全なバリアフリー化は困難
経済性	○新しい機器は省エネ化が進んでいる ○単独で整備するよりも安価で新築できる	▲長寿命化改良工事に多額の資金が必要 ×古い設備は省エネ性が劣る ×古い設備は故障する頻度が高い	×公民館に改修する工事に多額の資金が必要 ×古い設備は省エネ性が劣る ×古い設備は故障する頻度が高い
管理区分	▲管理区分・会計区分の整理が必要	○単独の施設となるため区分が明確	▲他の施設と共用になる可能性あり ▲管理区分・会計区分の整理が必要

■配置計画例の作成

上大津公民館を複合化した場合の配置ゾーニング図(例)を作成し、校舎等の配置、規模を検討しました。
※以下に示す配置計画は一例です。



■全体計画概要

区分	機能	面積	区分	機能	面積
校舎	普通教室	2,160 m ²	運動施設	屋内運動場	1,064 m ²
	特別支援	216 m ²		プール	120 m ²
	特別教室	1,080 m ²	児童クラブ		288 m ²
	管理諸室	720 m ²	公民館		340 m ² ※ (772 m ²)
	共用部	約 2,400 m ²	防災備蓄倉庫		20 m ²
校舎合計	約 6,600 m ²		屋内施設・その他合計		約 1,800 m ²
敷地合計	約 24,550 m ² (内グラウンド約 8,400 m ² 、駐車場約 3,900 m ²)				

※ () 内は学校と共用する室を含めた面積です。
※各室の面積は基本・実施設計時に再検討します。

■施設整備スケジュールの整理

内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
設計者選定	●	●				
基本設計・実施設計		●	●			
敷地造成		●	●			
施工者選定			●	●		
建設工事				●	●	● 開校